



「キャリア教育」研究校

大津町立大津中学校



1 研究主題

自ら未来を切り拓く力を身につけた生徒の育成
～キャリア教育の視点に基づく、全ての教育活動の推進を通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的な課題から

AIの台頭による雇用形態の流動化や、就労移行プロセスに問題を抱えた若年無業者の増加など、子ども達を取り巻く世の中の環境では大きな変化が予想されている。

このような課題の中で、今後、社会人、職業人として未来を切り拓いていくためには、生徒に、主体的に自己の進路を選択し決定できる力や様々な課題に対応できる力を育成することが必要となってくる。つまり、キャリア教育を推進することが、未来を切り拓いていく力を身につけることにつながると考え、本主題を設定した。

(2) 本校生徒の実態から

生徒の生活態度は落ち着いており、昨年度の県学力・学習状況調査においては、全教科で県平均値を上回った。一方で、校内のアンケート結果では、「将来の夢や目標を持っているか」という質問に対し肯定的な回答をした生徒の割合が67%と他の質問よりも低い状況が見られた。

そんな中、全職員で、「本校生が将来、社会で自立するために必要な姿」について協議をした結果「自主」「自律」「挑戦」という姿が上がった。さらに、この3つの姿に生徒を育成するためには、どのような資質・能力が必要か協議を深め、本校生には「つながる力」「解決する力」「見つめる力」「計画する力」が必要であると結論付けた。そして、この力は、キャリア形成のために必要であるとされている基礎的・汎用的能力と合致するものと考えた。

これらのことから、生徒達に夢や目標を持たせ、自主的で自律した行動ができ、何事にも挑戦していく力を身につけさせるためには、これまで実践してきた全ての取組を、キャリア教育の視点で見直し、再構成するとともに、推進していくことが有効であると考え本主題を設定した。



本校生に必要な資質・能力の検討をしている様子

3 研究主題について

本校では、「自ら未来を切り拓く力」とは、「社会に出て自立して生き抜いていくために必要な資質・能力」と捉え、その資質・能力を「つながる力」「解決する力」「見つめる力」「計画する力」と設定した。また、副主題にあげているキャリア教育の視点とは「5年後に社会で自立できる生き方を育む視点」と捉えている。

自ら未来を切り拓く力

つながる力

解決する力

計画する力

見つめる力

研究の視点

具体的方策

視点1:

「解決する力」を伸ばす、探究的な学びのある総合的な学習の時間

学校での全ての学びをつなげ、活用することで、自ら課題を設定し、その課題を解決する方法を探究していく力を身につける総合的な学習の時間の創造

視点3:

「つながる力」を高める、授業改善

授業の目標も達成しながら、本校で目指す4つの資質・能力も高まっていく授業の創造。特に「つながる力」が必要な学びの場を設定することによる、学びの深まり、つながる力の向上を目指す

視点2:

「見つめる力」「計画する力」を育む、要としての特別活動と特別の教科 道徳

キャリア教育の要として、本校で目指す4つの資質・能力を高める特別活動の創造と、全ての教育活動で身につけた4つの資質・能力を意識させる特別活動・道徳科の創造

五年後に社会で自立できる生き方を育む視点

①「探究的な学びの視点」を取り入れた、総合的な学習の時間の目標、全体計画づくり

② 自分の生き方を見つめる学習の取組

①熊本の学び推進プランを活かした

「大津中の学び」の見直し

② 「つながる力」を活かした授業づくり

③ 自ら取り組む家庭学習の工夫

①キャリア・パスポート、見つめるアンケートの実施とキャリアカウンセリングの取組

②特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)の見直し

③見つめる活動を重視した道徳科の授業展開

研究の仮説
全ての教育活動において、キャリア教育の視点(五年後に社会で自立できる生き方を育む視点)に基づき指導を行えば、自ら未来を切り拓く力を身につけた生徒が育つであろう。

＜大津町教育基本理念＞夢を持ち、夢を育み、夢を叶える教育実践

＜大津中教育実践のキーワード＞「率先垂範」「そろえる」「続ける」「極める」

人権教育(全ての教育活動の根底にあるもの)

4 研究の内容

(1) 『「解決する力」を伸ばす、探究的な学びのある総合的な学習の時間』部会の取組

①「探究的な学びの視点」を取り入れた、総合的な学習の時間の目標、全体計画づくり

本校では、これまでの総合的な学習の時間を抜本的に見直し、「解決する力」を伸ばすことのできる探究的な学びへの移行を図った。単元を構成し、目標を定め、各学年テーマ、探究課題、探究課題解決を通して育成する資質・能力を次のように定めた。下図は、大津町の現状を調査する活動を通して今後の自分たちの生き方を探究していく学習の計画である。

学年	第1学年(50時間)	第2学年(70時間)	第3学年(70時間)
テーマ	「大津町を知る」	「働く意義を考える」	「持続可能な大津の将来ビジョン」
目標を実現するにふさわしい探究課題	大津町を支える産業等の役割を知り、特色や課題を探る	仕事を体験し、働くのか意味や意義を探る	将来を予測し、ずっと住みたいと思える大津町にするために、今から何をすべきかを探る
探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	知識及び技能 地域探究活動を通して、大津町の産業や行政サービスを知り、主体的に社会や地域に参画する態度を育てる。 ・大津町について深く知り、支える人々の責任感や町をよくするための工夫などについて理解を深める。 ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	職業体験を通して、職業や進路に興味を持ち、働く意味を問いつながら主体的に生き方を選択する態度を育てる。 ・働く意義や意味を知り、大津町の産業について知識を深める。 ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	探究活動を通して、大津町の将来に関心を持ち、生涯にわたって地域を大切にすることを育てる。 ・大津町と社会の結びつきを知り、未来社会を予測しながら、大津町の発展について理解を深める。 ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。
思考力、判断力、表現力等	課題の設定 ・自分たちを取り巻く社会に広く目を向け、活動の意図や目的を明確にしたりして自ら課題を見出している。 ・解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てている。	情報の収集 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集し適切な方法で蓄積している。 ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択している。	整理・分析 ・問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。 ・事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析している。
学びに向かう力、人間性等	まとめ・表現 ・調べたり考えたりしたことをもとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。 ・教科で身に付けた知識及び技能を横断的・総合的に活用して表現している。	振り返り ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。 ・振り返りの観点を自己で設定して活動を振り返り、次の活動に生かそうとしている。	主体性 ・自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。
	協調性 ・自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。	自己理解 ・探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴やよさを理解しようとしている。	他者理解 ・探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとしている。
	社会参画 ・探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとしている。		

ア)総合的な学習の時間と本校が目指す4つの資質・能力との関連について

本校が目指す4つの資質・能力との関連については、単元をデザインする際に明記するようにした。下の例は、2年生の単元「平和を探究しよう」の学習における、4つの資質・能力である。

つながる力 国際平和を希求し、自国及び他国を尊重する態度を育てる。また将来にわたって協力して平和社会を築こうとする態度を養う。 ①他者の個性を理解する力 ②チームワーク	計画する力 国際平和実現に向けての、段階的な手段及び方法の検討と、自己実現に向けての方法や計画を立てることができる。 ①行動を改善する力 ②多様性の理解
解決する力 整理・分析を通して、紛争や民族対立の原因を見抜き、原因を追求することで、主体的・平和的な解決の方法を探る。 ①原因を追求する力 ②情報の処理・選択	見つめる力 日頃の人間関係を振り返り、課題解決には話し合いによる対話が必要不可欠であることを学び、武力行使によらない非暴力の態度を養う。 ①自己の役割と理解 ②主体的行動

イ) 単元例 3年「持続可能な大津の将来ビジョン」

3年生では、これまでの地域学習を振り返り、新たに地域の課題を見出し、自らが大津町に貢献できることを考え、自己の生き方を見つめる単元を設定した。

課題設定では、ウェビングを使い、これまでの学びを振り返り、学習内容の整理を行った。さらに、大津町役場に協力いただき、各部局へのインタビューから大津町の現状や問題を明らかにした。その後、情報を整理し、各班の課題設定を行った。

【キャリア教育と資質能力の関連】



【ウェビングによる情報の整理】

生徒は、未来の大津町の姿とともに町の活性化に向けた事業内容を考えた。探究的な学びの中で、「地域の応援団になってもらいたい」など地域の方の声にも触れることとなり、地域の良さとともに、大津町の一員としてどのように生きるかを考える学習となった。



【インタビューによる情報の収集】

②自分の生き方を見つめる学習の取組

本校では、中学生が職業人の話を直接聞くことによって、自己の生き方を考える機会とし、望ましい勤労観、職業観を育み、社会的自立の基礎力を育てる機会として、全校生徒を対象にした「校内ハローワーク」を開催している(令和2年度は、コロナ禍のため現在調整中)。講話を聞く中で、道徳と経済の両立など社会人としての生き方に触れる機会となった。

(2) 『「見つめる力」・「計画する力」を育む、要としての特別活動と特別の教科 道徳』部会の取組

①キャリア・パスポート、キャリアアンケートの実施とキャリアカウンセリングの取組

大津町では、町で共通したキャリア・パスポートを活用しており、「学年初め」「前期の振り返りと後期に向けて」「学年末(3年生は18歳の私へ)」「学校行事(体育大会と合唱)」「人権学習」の計5回取り組むようにしている。(右写真)生徒個人の記入で終わるのではなく、必ず担任と保護者からそれぞれメッセージを記入するようしている。

また、本校で育む資質・能力の「見つめる力」「計画する力」と関連を図りながら、自分の学習状況やキャリア形成を振り返ったり、今後を見通したりするような取組にしていこうと全職員で確認した。また、生徒だけでなく、教師、家庭の三者で思いを共有することで、より一人一人に応じたキャリア形成への支援につながると考えている。

そして、キャリア・パスポート記入後は、

それをもとに担任との「キャリアカウンセリング」を実施し、生徒の現在と将来をつなげる取組を実施している。生徒の中には、現状の課題に対して目標がずれている生徒もおり、キャリアカウンセリングをすることで、自分の課題を具体的につかみ、的確な目標設定につながるような場面も見られた。このことは今後に向けて適切な計画を立てることにつながっていると思われる。

こんな大人になりたい(将来の夢) 看護師	そのために、つきたい力 素早く正しい判断ができるようになる力
〇なりたい自分になるために身につけたいこと(目標)と、そのために取り組みたいこと	
学習面の目標 苦手教科の苦手意識をなくす	そのために 苦手教科の勉強に力を入れ、テストで良い点をとる。
生活面の目標 積極的に自分からあいさつできるようにする	そのために 毎週やっているあいさつ運動でしっかり声を出す。
家庭・地域での目標 自分でできることは自分で(他人にまかせない)	そのために 積極的に手伝いをしたり、実施から言われる前に行動する。
その他(部活動・習い事・資格取得など)の目標 さまざまな検定の取得	そのために 普段から復習を忘れずしっかりする。
先生からのメッセージ 1年生の頃から夢を交わすようにし、2年生になったら夢を実現できるように努力をしよう! 社会人として、苦手教科の克服に向けて取り組んでほしい。	保護者などからのメッセージ 遠い未来のことを想像しながら目の前にあるやるべきことを毎日の積み重ねによって実現してほしいと思う。

【学年始めのキャリア・パスポート(一部抜粋)】



【担任とのキャリアカウンセリング】

1.	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。
2.	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。
3.	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。
4.	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握(はあく)しようとしていますか。
5.	気持ちがしずんでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。
6.	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。
7.	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を集めたり、だれかに質問をしたりしていますか。
8.	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。

【キャリアアンケートの一部】

また、本校では、本校が育成を目指す4つの資質・能力を測るためのキャリアアンケート(左図)を実施しており、カウンセリングの材料として活用している。パスポートの内容をベースに、アンケートで低い数値を示した項目を意識させながら、今後どうしていくべきかなどを共に考えることで、生徒のキャリア形成につなげるよう取り組んでいる。

(※キャリアアンケートは文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』を参考にして作成)

②特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)の見直し

新学習指導要領総則に、「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と明示されたこともあり、本校の特別活動をキャリア教育の視点で見つめ直し、年間計画の見直しを行っている。

学級活動： キャリア教育・学級活動用テキスト『中学校生活と進路(公益財団法人日本進路指導協会監修)』を特別活動(学級活動)の年間指導計画に組み込み、3年間を通して計画的・効果的なキャリア教育の充実を図りやすいように見直しを実施した。

生徒会活動： 学校生活における自分たちの課題を見つめ、その課題を解決するための方策を自分たちで計画し、行動していくような流れに活動を変更し、より主体的に自律して動いていくことができるよう取組を進めている。

学校行事： 各行事の内容を、本校が育成を目指す4つの資質・能力との関連で見つめ直し、各行事で育成を目指す4つの資質・能力を明確にした上で計画を立て実施することとした。

③見つめる活動を重視した道徳の展開

特別の教科道徳では、特に「見つめる力」を身につけさせることを共通実践として取り組んでいる。これまでの道徳科の授業でも自分や周囲を見つめる時間は当然とられていたが、その時間を重視し、これまで以上に道徳科の授業時に意識していくことにした。

そこで、まず取り組んだのが「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」場面の設定である。そのためには、自分の考えを持つ必要があり、他人の意見を聞いて自分の考えを再考しなければならない。そのことは、自分自身を深く見つめることにつながり、生徒の見つめる力が向上すると考えた。そのために「主発問の工夫」「話し合いの形態の工夫」「道徳的諸価値をつかみやすくする工夫」などを実施している。



【道徳的諸価値をつかみやすくするための、ゲストティーチャーの活用】



【自分の思いを数値で表し、他者との違いを明確化する板書の工夫】

(3) 『つながる力』を高める、授業改善』部会の取組

①熊本の学び推進プランを活かした「大津中の学び」の見直し

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒たちの学びの側から授業を捉え直し、学習構想案を作成している。また、学習構想案に生徒に身につけさせたい4つの資質・能力からみた生徒の実態及び指導に当たっての留意点を取り入れることで、「学習構想案」の自校化を図った。

具体的には、学力調査の結果等、単元の目標につながる学びの実態を「生徒の実態Ⅰ」として構想案に記述した。加えて、本単元の学びに特に関係する「本校が育成を目指す資質・能力の実態」をキャリアアンケートや i-checkの結果等から記述するとともに、その指導に当たっての留意点を「生徒の実態Ⅱ」に記述した。

生徒の実態Ⅱ（本校が育成を目指す資質・能力の実態と、指導に当たっての留意点）	
<p>A『つながる力』（人間関係形成・社会形成能力） ○6月に実施したキャリア教育アンケートの結果、4つの視点のうち、もっとも高かった力である。話を聞くとき、相手の気持ちや考えを受け止めようとするが、自分自身のことを伝えたり、自ら役割を見つけて周囲と協力したりすることには消極的である。</p>	<p>A『つながる力』（人間関係形成・社会形成能力） ○自分の考えを持ち、考えたことをペアやグループの中で伝える場面を設定する。あえて、解決に悩んでいる生徒から発表させ、全員で課題を共有し、共に考え協力して解決に向かう力を働かせたい。</p>
<p>B『解決する力』（課題対応能力） ○分からないことを分かるようになりたいという気持ちはあるが、自ら調べて解決しようとする意欲にはやや欠ける。 ○i-checkの結果からも、どのようにすれば、よりよく問題を解決できるかを考えることや自ら行動を起こすことが苦手な生徒が多い。このことは、成功体験が少なく、自己肯定感の低さにも関連していると考えられる。</p>	<p>B『解決する力』（課題対応能力） ○生徒たちが普段使用している身近なものであるプリントを教材として扱うことで、興味・関心を高めたい。実測では個々によって結果が異なるが、平方根を利用した方法では正しく結果を導くことができるということを実感させたい。 ○自分の考えを自信を持って説明できるようにするために、ペアで相談する時間や、説明の練習をする時間を設定する。</p>

【本校学習構想案（一部抜粋） 生徒の実態Ⅱ】

②「つながる力」を活かした授業づくり

生徒が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業を目指し、授業実践を通して検証した。特に本校では、本校が育成を目指す4つの資質・能力の中の「つながる力」を活用し、授業改善を図ることとした。

「つながる力」を活用しながら学ぶ生徒の姿を、①他者の個性(考え)を理解しようとする姿 ②他者に自分の考えを的確に伝える姿 ③役割を果たし協働しながら学ぶ姿、と考えた。



また、「つながる力」を活かす学習活動として、ペア活動、【「つながる力」を高める場面の設定】グループ活動(話し合い活動や教え合い活動)、ディベート、発表の場面を設定した。

③自ら取り組む家庭学習を目指して

生徒が、自ら計画を立て、決まった時刻に家庭学習に取り組ませ、習慣化を図った。そこで、本校で使用している生活ノートと自主学習ノートを一体化させての活用を試行中である。

特に、家庭学習の「めあて」を帰学活で記入させ、授業と家庭学習がつながるようにした。このことで、授業を振り返り、自分を見つめながら目的をもって学習に取り組めることと考えている。

また、家庭学習を振り返り、保護者からのコメント、担任からのコメントを記入する欄を設け、生徒の頑張りを認めながら、生徒、家庭、学校がつながるように工夫を続けている。

2年1組()番 名前()		の自主学習ノート	
家庭学習	時間 分	教科	家庭学習のポイント
就寝時間	時 分		
今日のふりかえり			
			明日の時間割
			教科
			準備物・宿題
			1
			2
			3
			4
			5
			6
めあて			

【家庭学習に使用する自主学習ノート】

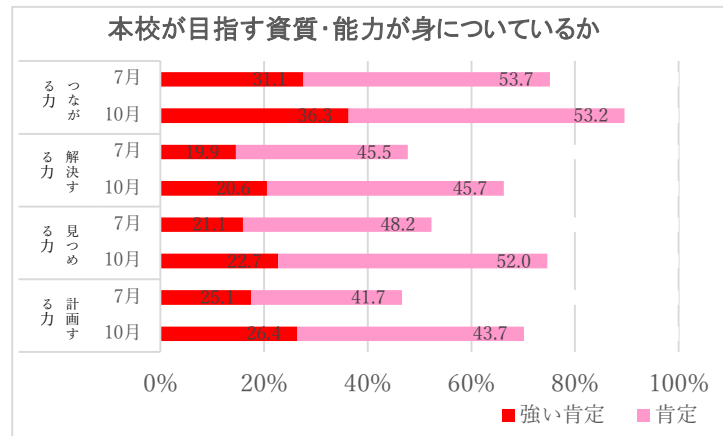
5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

7月と12月に全校生徒を対象としたアンケートによると、本校が目指す4つの資質・能力が身につけてきたと回答する生徒が増え、自覚化が図られていることが分かる。

これは、学校教育目標の見直しとともに、本校で育成する資質・能力を設定し、本校のグランドデザインを作成したことで、教育課程について、職員だけでなく生徒、家庭と共有することができ、カリキュラムマネジメントの推進が図られてきたことが一つの要因と考えられる。

また、学習者の視点に立った「熊本の学び」への授業改善が進み、生徒が課題に主体的に向き合い、協働的に学びを深めることが増えたことも要因と考えられる。



(2) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響で、実施が困難となった「職場体験学習」「校内ハローワーク」「カタリバの会」などについて、新たなかたちでの実施を検討している。特別活動がキャリア教育の要を担うとともに学校教育活動全体で、自己の将来や社会づくりにつなげるように、カリキュラムマネジメントを一層推進する必要がある。

研究同人【令和2年度】

浦田安之	山口 徹	水上堅悟	山田真一郎	甲斐真一郎	長野正樹	太田小咲稀
杉野紗映	上原正子	小島孝介	寺井裕加里	浴永智美	星子和寛	後藤順子
石原あおい	山本加代	吉村多恵子	園村大地	新納里恵	藤山征太郎	福田 勇
臺ももか	長野真由美	荒木方子	山本久仁子	齊藤綾子	中野真由美	富永節子
前田 純	志水貴彦	片岡恵子	阿部りか	中野裕大	松浦禎文	中川千春
舟津俊宏	松崎仁美	工藤幸子	木下亜希	下村知可	宮本幸代	萱野沙織
橋本理恵	宮野 薫	今村美智代	吉村修子			

参考文献・資料

- 中学校学習指導要領(文部科学省)・中学校学習指導要領解説<総則・各教科>(文部科学省)
- 中学校キャリア教育の手引き(文部科学省)
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料<各教科>(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- キャリア教育で変える学校経営論(実業之日本社)
- 学級活動を核とした中学校キャリア教育(埼玉県中学校進路指導研究会)